

第55回企画展

「山の恵みーみどり市の林業史ー」

開催期間 平成25年2月2日(土)～3月10日(日)

開催会場 岩宿博物館 1階 企画展示室

展示解説会 2月2日・9日・23日 各土曜日午後2時から

古来より、人々は山の恵みを享受すべく日々の生活の中で山や森林と接し、樹木や林産物を活用することで生活をなりたたせてきました。その時々^の為政者にとっても重要な関心事であり、森林は経済・社会の基盤を作るうえでの木材の供給源でした。

近代化の流れの中、山々から伐り出していた木材は、鉄鋼やコンクリートへ、里山の雑木林から作っていた薪炭は石油や電気・ガスへと移り変わり、人々はいつしか山の恵みから距離を置くようになってしまいました。しかし、環境問題が取り沙汰される昨今では、山の恵みについてもいろいろな観点から論じられています。

本展示では、そのような山の恵みと人間とのかかわりの中でも、特に材木生産や炭焼きに焦点をしぼり、みどり市の林業史を概観します。

展示内容

①ヤマをめぐる人々の暮らし

みどり市周辺では人々がどのようにヤマとかかわりをもって生活してきたかを明らかにします。特に山にかかわる税の問題、村々による入会山の問題、山稼ぎと呼ばれる生業の問題を中心に絵図や古文書を中心に展示します。

②林業技術の歴史

林業技術の発生を立木伐採の方法の変化や使用した道具の変化から概観し、群馬県下の遺跡から出土した鋸・鉋^{なた}・鎌などを紹介します。

さらに、材木生産を中心とした林業技術の作業を江戸時代の絵巻物を通じて概観します。江戸時代に水沼村(現桐生市)の星野七郎右衛門が尽力して江戸幕府御用材を伐り出した様子が描かれている「川浦山御用木御伐出絵図」を展示し、江戸時代の材木生産の作業工程を紹介します。

また、明治時代以降になると、材木伐出と製材加工工程が分化してきます。みどり市内では、

足尾山地の森林資源の多さを背景に製材業を営む人も多く、ここでは林業や製材業が盛んだった明治期から昭和30年代までの林業の盛衰を概観します。



木材の伐出風景

